



▲「申渡」(長左衛門新田福田家文書)

仁連町・恩名村・長左衛門新田などを支配して、農村復興・小児養育に尽力し、名代官と称され、岸本大明神と祀られた岸本武太夫就美は、その代表格です。

代あたどの侮り」を受け、不正の原因となるので注意するようにと述べています。

最初から巧者いない。心がけ次第！

安政5(1858)年3月に勘定奉行土岐撰津守朝昌が代官に行った申渡状が現存していますが、代官勤め方の心得が述べられていて興味深いので、少しのぞいてみましょう。

まず「御代官は大切之御役」として「初発より其図ニ当候様ニは不行届候共心懸次第二而功者ニも可相成縦令才能有之とも心の用ひ方等閑ニ候得は終身不功者ニ可有之候」(誰も就任当初から完璧ではなく、失敗もあるけど、その後の心がけ次第で巧者にも不巧者にもなる)と、職務における日々の心がけの重要性を述べています。

さらに、「家来召仕を始メ手附手代共ニ至迄心を配万事慈悲を元ニいたし賞罰正敷、物事を禁し質素儉約を専其身行跡正敷相勤候得はおのつから手付手代之邪正も明白ニ相成其威権郡中ニおよほし国郡治らさると申儀は有之間敷」(代官自身が正しい行いをし、配下の者に対して、慈悲を持ち公平に接すれば、その威厳により治まらないことはない)と「品行方正、慈悲、公平」を求めています。

手附手代の人選にあたっては、「何事も心任せたるもの」なので「人選専用之事」(人選が重要)であり、せつかくの人材も、代官自体が職務不案内では活用できず、「手附手

三和地区はお代官様の支配地

三和地区は、江戸時代に天領であった村々が多く存在しました。そのため、三和資料館が所蔵する資料からは、78名の代官を確認することができます。

彼らの履歴を見ると、生涯代官であった者、代官から幕府高官へ大出世を遂げた者など、笑いあり涙あり。

名代官と称えられ領民に神様として祀られた者、良くも悪くもない勤めぶりの者、神様として祀られながら代官から他職へ昇進後、一転悪名高くなりトラブルで変死した者、真面目ゆえに役所運営費が高み多額の負金を生じ返済できず改易遠島になった者、勘定所からの支給金をすべて手附・手代給与、役所運営費に使いきり、長年勤めてくれた配下たちの昇進を幕閣に小まめに内願運動した者、などなど、その後の人生はさまざまです。

三和資料館では6月29日(水)まで、「お代官様！ ～三和地区を治めた、その実像～」と題した館蔵資料展を開催中。館蔵資料から、支配地における代官たちの実像にせまります。

三和資料館学芸員 白石謙次